

**令和3(2021)年度  
全国学力・学習状況調査  
各教科の分析**



**下野市教育研究所  
令和4年1月**

# 令和3(2021)年度「全国学力・学習状況調査」各教科の分析

令和4年1月14日  
下野市教育委員会

## 調査について

### 1 調査の概要（「全国学力・学習状況調査」実施要項より一部抜粋）

#### (1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### (2) 調査実施日

令和3(2021)年5月27日(木)

#### (3) 調査対象

- ①小学校 第6学年
- ②中学校 第3学年

#### (4) 調査事項及び手法

##### ①教科に関する調査

- ・小学校調査：国語、算数
- ・中学校調査：国語、数学

##### ②児童生徒質問紙調査

- ・内容：学習意欲、学習方法、学習環境、家庭学習等
- ・方法：選択回答式
- ・質問数：小学校69問、中学校69問

##### ③学校に対する調査

学校における指導に関する取組や学習環境等に関する質問紙調査を実施する。

#### (5) その他

本調査の結果は、学力の特定の一部であること、学校における活動の一側面であることに留意し、児童生徒の全般的な学習状況への指導・改善等につなげるよう留意する。

### 2 本市の参加状況 ※参加人数は最も多かった教科のもの

調査対象内訳	下野市の状況		全国(公立)
小学校第6学年	小学校11校	517人	994,101人
中学校第3学年	中学校4校	486人	903,253人

# 本市の結果について

## 1 概要

### 【教科に関する調査の結果の下野市と全国・県平均との比較】

- ◎ 大きく上回っている(5ポイント以上)、○ 上回っている(1ポイント以上5ポイント未満)  
 - 同じ(±1ポイント未満)  
 ▽ 下回っている(1ポイント以上5ポイント未満)、▼ 大きく下回っている(5ポイント以上)

小学校第6学年			中学校第3学年		
教科	県との比較	全国との比較	教科	県との比較	全国との比較
国語	○	○	国語	○	○
算数	○	○	数学	◎	○

小学校第6学年、中学校第3学年共に、2教科とも市の平均正答率が全国・県の平均正答率を上回る結果となった。

## 2 結果の推移（全国平均正答率との比較）

### 【直近10年間の結果】

- ◎ 大きく上回っている(5ポイント以上)、○ 上回っている(1ポイント以上5ポイント未満)  
 - 同じ(±1ポイント未満)  
 ▽ 下回っている(1ポイント以上5ポイント未満)、▼ 大きく下回っている(5ポイント以上)

		H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R 2	R 3	
小学校 第6学年	国語A	一斉 実施 なし	○	▽	▽	◎	○	○	○	一斉 実施 なし	○	
	国語B		○	○	◎	○	○					
	算数A		○	-	◎	◎	○	○	○		○	
	算数B		○	○	○	○	○	○				
	理科				○			○				
中学校 第3学年	国語A		○	○	○	○	-	○	○		一斉 実施 なし	○
	国語B		◎	○	○	◎	○	○				
	数学A		○	○	○	○	○	-	○			○
	数学B		○	◎	◎	○	○	○				
	理科				○			○				
	英語								○			

※平成31年度よりA問題とB問題の区分なし

# 各教科の結果について



## 1 国語

小学校第6学年

### (1) 概要

- ◎ 大きく上回っている (5ポイント以上) ○ 上回っている (1ポイント以上5ポイント未満)  
－ 同程度 (±1ポイント未満)  
▽ 下回っている (1ポイント以上 5ポイント未満) ▼ 大きく下回っている (5ポイント以上)

### ① 学習指導要領の内容別正答率

	[知識及び技能]	[思考力、判断力、表現力等]		
	(1) 言葉の特徴や 使い方に関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと
県との比較	○	○	◎	◎
全国との比較	○	○	◎	○

### ② 観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
県との比較	○	◎
全国との比較	○	○

### ③ 問題形式別正答率

	選択式	短答式	記述式
県との比較	○	○	◎
全国との比較	○	○	◎



## ① 学習指導要領の内容

第3・4学年

〔思考力、判断力、表現力等〕C読むこと

ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。（精査・解釈）

## ② 考察

全国平均正答率を上回り、無解答率も1%未満ではあったが、平均正答率が4割を下回る結果となった。解答類型の反応率は、全国とほぼ同様の傾向が見られた。類型5の反応率は43.7%であり、正答の割合よりも高くなっている。類型5の児童においては、国際宇宙ステーションでの面ファスナーの使われ方について、必要な言葉を見付けて要約することはできていることから、文章の一部から具体例を取り上げて文章を要約する力は身に付いていると考えられる。しかし、面ファスナーのよさについて取り上げることができていないことから、問題文中に示された「身近にある便利なものについて調べる」という目的を意識しながら文章全体を捉えることに課題があると思われる。要約する目的によって、内容の中心となる語や文は異なってくるため、目的を意識しながら文章全体から必要な部分を選び、文章の内容を短くまとめる力を身に付けられるよう指導することが必要になる。

指導に当たっては、言語活動の設定や単元構成の工夫が重要になる。言語活動の設定や単元構成については、次のような工夫が考えられる。単元を通して取り組む言語活動として、各自が選んだ説明的文章を読み、「特に紹介したい内容が伝わること」を目的として、必要な言葉や文を引用しながら紹介文を書く活動を設定する。第一次の段階では、目的に応じた要約の手順を理解できるよう、学級全体で共通の目的を設定し、文章の構造や内容を一齐で確認しながら要約していく。その際に、本調査問題を活用することも考えられる（下記〔調査問題を活用した1単位時間の学習活動の例〕参照）。第二次の段階では、第一次の学習を生かし、教科書の教材文や各自が選んだ文章を目的に応じて要約していく。その際、同じ目的をもつ児童同士で要約した文章を読み返し、伝えたい内容を落とさずにまとめられているか確認したり、必要に応じて修正したりする場を設定することが大切である。また、紹介したい内容の違いによって要約文も異なってくることを実感を持って理解できるよう、単元の終わりに異なる目的の児童同士で紹介文を読み合う活動を設定するなどの工夫も考えられる。

### 〔調査問題を活用した1単位時間の学習活動の例〕

学級全体で共通の目的を設定し、文章の構造や内容を捉えながら、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する。（第一次）

- ①「面ファスナーのよさ」について、「面ファスナーが開発されたきっかけ」を紹介しながら伝えることを目的として、これらが書かれている部分を中心に読み、中心となる語や文などの必要な情報を確認する。

#### 取り上げたい語や文の例

- ・「一九四八年」
  - ・「（ジョルジュ・デ・）メストラル」
  - ・「狩猟のため、愛犬をつれて山に登った」
  - ・「犬の毛に野生のゴボウの実がたくさんついていることに気がつきました。」
- 等

②必要な情報を基に文章を要約する。

③確認問題として本問（**2**四）を解き、定着の状況を確認する。

## 中学校第3学年

### (1) 概要

- ◎ 大きく上回っている (5ポイント以上) ○ 上回っている (1ポイント以上5ポイント未満)  
 - 同程度 (±1ポイント未満)  
 ▽ 下回っている (1ポイント以上 5ポイント未満) ▼ 大きく下回っている (5ポイント以上)

### ① 学習指導要領の領域・事項における正答率

	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
県との比較	○	○	◎	○
全国との比較	○	◎	◎	○

### ② 観点別正答率

	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
県との比較	◎	○	○	◎	○
全国との比較	◎	○	◎	◎	○

### ③ 問題形式別正答率

	選択式	短答式	記述式
県との比較	○	○	◎
全国との比較	○	○	◎

(2) 課題が見られた設問

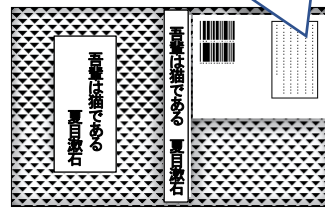
3 四

「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く。

3 次は、夏目漱石の作品『吾輩は猫である』の本のカバーに書かれている【紹介】と、【文章の一部】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【紹介】

中学教師の苦沙弥先生の家で暮らす猫「吾輩」から見れば、世の中は全くもって滑稽そのもの。周囲の様子を観察し、様々に評価する。ユーモアあふれる長編小説である本作は、漱石が三十八歳のときに発表して以来、多くの読者に愛されてきた。今なお、多くの人の共感を呼ぶ名作。



～【文章の一部】～

4 【紹介】に「線部「様々に評価する」とありますが、【文章の一部】では、「吾輩」は「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしていますか。また、あなたは、そのような「吾輩」の接し方をどう思いますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 【文章の一部】から、「吾輩」が「黒」を評価している表現を引用した上で、「吾輩」が「黒」にどのような接し方をしているかが分かるのかを書くこと。

条件2 条件1のような「吾輩」の接し方について、あなたの考えを具体的に書くこと。

[正答例]

- ・「はなはだ御しやすい猫である」と評価しており、「吾輩」は「黒」の機嫌をとるような接し方をしていることが分かる。私は、このような「吾輩」の接し方はとても賢いと思う。
- ・「腕力と勇氣とにいたってはとうてい黒の比較にはならない」と書かれていて、黒に敬意をもって接していることが分かります。相手の悪い面だけでなく、よい面にも目を向けることは大切なことだと思います。
- ・「元来黒は自慢をするだけにどこか足りないところがあつて」と相手を見下すような接し方をしていて、あまりよい気持ちがない。

[正答の条件]

次の条件を満たして解答している。

- ① 【文章の一部】から、「吾輩」が「黒」を評価している表現を引用して書いている。
- ② ①で引用した表現から、「吾輩」が「黒」にどのような接し方をしていることが分かるのかを書いている。
- ③ ②のような「吾輩」の接し方について、自分の考えを具体的に書いている。

[平均正答率] 市26.5% 全国20.5% [無解答率] 市14.8% 全国24.1%

[解答類型と反応率(市)]

解答類型	反応率
1 条件①、②、③を満たして解答しているもの(正答)	26.5%
2 条件①、②を満たし、条件③を満たさないで解答しているもの	1.0%
3 条件①、③を満たし、条件②は満たさないで解答しているもの	0.0%
4 条件②、③を満たし、条件①は満たさないで解答しているもの	48.8%
上記以外の解答	8.8%
無解答	14.8%



## ① 学習指導要領の内容

### 第1学年

〔思考力、判断力、表現力等〕C読むこと

オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げること。（考えの形成）

## ② 考察

全国平均正答率を上回ったが、平均正答率が3割を下回り、無解答率も15%近い結果となった。解答類型の反応率は、全国とほぼ同様の傾向である。類型4の反応率は48.8%と正答率より20%以上高い。類型4の生徒においては、文章を読み、自分の考えを形成することはできていると考えられる。しかし、自分の考えの裏付けとして、文章中に表れている登場人物の考え方を適切に捉え自分の考えの根拠として示すことには課題があると思われる。新学習指導要領においては、自分の考えを形成する学習過程を重視し、全ての領域に「考えの形成」に関する指導事項を位置付けられている。文章を読み、理解したことに基づいて自分の考えを形成するためには、書かれている内容を理解するだけでなく、登場人物の言動に関する叙述から登場人物の「ものの見方や考え方」を捉え、それらを根拠にして自分の考えをより確かなものにするよう指導することが必要になる。

指導に当たっては、書いた文章を読み合ったり自分の考えを他者に説明したりする活動を設定し、他者の考えやその根拠に目を向け、自分の考えを振り返り、再考できる場を設けることが大切である。

本問で明らかになった「根拠となる文章を引用することに課題が見られる」という実態を踏まえ、令和3年度『授業アイデア例』（国立教育政策研究所）では、考えの根拠が示されていない文章を示し、考えがより確かなものになるよう、本文のどの箇所を引用すればよいか検討するといった活動の工夫が紹介されている。

[調査問題を活用した単元全体の学習活動の例]

※令和3年度『授業アイデア例』（国立教育政策研究所）より一部抜粋

叙述を根拠に自分の考えをもつ ～「吾輩は猫である」を読む

### 第1時

学習の見通しをもつ。→「吾輩は猫である」を読み、叙述を基に自分の考えをもつ。

### 第2時

「吾輩は猫である」について、インターネット上にあるレビューを読み、作品がどのように受け止められているのかを知る。

### 第3時

調査結果から課題が見られた解答例を提示し、本問の【文章の一部】から、考えをより確かにする叙述を探す。各自で解答例を書き直し、グループで交流する。

提示する文章例 →調査問題 3 四において多く見られた誤答の例を提示する  
「吾輩」は「黒」を少し見下して接している。このような接し方は相手に失礼だと思う。

### 第4時

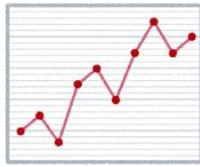
第1時に読んだレビューを基にして「吾輩は猫である」の別の場面を各自で選んで読み、第3時の学習を踏まえて自分の考えをノートに書く。

### 第5時

書いた内容をグループで交流し、互いにコメントを書く。

## 2 算数・数学

小学校第6学年



### (1) 概要

- ◎ 大きく上回っている (5ポイント以上) ○ 上回っている (1ポイント以上5ポイント未満)  
 — 同程度 (±1ポイント未満)  
 ▽ 下回っている (1ポイント以上 5ポイント未満) ▼ 大きく下回っている (5ポイント以上)

### ① 学習指導要領の領域別正答率

	A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用
県との比較	◎	○	○	○	○
全国との比較	○	○	○	○	○

### ② 観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
県との比較	○	○
全国との比較	○	○

### ③ 問題形式別正答率

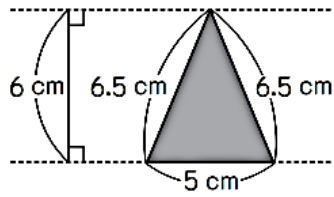
	選択式	短答式	記述式
県との比較	○	○	◎
全国との比較	○	○	○

(2) 課題が見られた設問

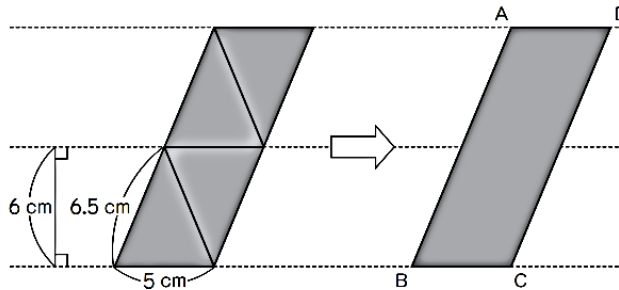
2 (3)

二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く。

2 (3) 次のような二等辺三角形があります。



上の二等辺三角形を4つ使い、次のように、同じ長さの辺どうしを合わせて、平行四辺形ABCDをつくりました。



平行四辺形の面積の公式を使って、平行四辺形ABCDの面積を求めます。辺BCを底辺としたときの面積の求め方を、式や言葉を使って書きましょう。そのとき、平行四辺形ABCDの高さをどのように求めたのかわかるようにしましょう。また、平行四辺形ABCDの面積が何 $\text{cm}^2$ になるのかも書きましょう。

[正答例]

辺BCを底辺としたとき、高さは $6 \times 2 = 12$ で、 $12 \text{ cm}$ です。  
平行四辺形ABCDの面積は、 $5 \times 12 = 60$ で、 $60 \text{ cm}^2$ です。

[正答の条件] 次の条件を満たして解答している。

- ① 平行四辺形ABCDの高さを求める式や言葉を用いている。
- ② 平行四辺形の面積を求める公式を用いた、平行四辺形ABCDの面積を求める式や言葉を用いている。

[平均正答率] 市52.4% 全国46.0% [無解答率] 市1.7% 全国4.6%

[解答類型と反応率 (市)]

解 答 類 型		反応率
1 ①、②の全てを書いている	60と解答しているもの(正答)	52.4%
	60以外を解答しているもの	0.0%
2 ①を書いている	60と解答しているもの	1.7%
	60以外を解答しているもの	4.4%
3 ②を書いている	60と解答しているもの	8.3%
	60以外を解答しているもの	0.4%
4 高さを6.5cmの二つ分と捉えているもの	60と解答しているもの	0.6%
	60以外を解答しているもの	5.8%
	上記以外の解答、無解答	4.4%
5 平行四辺形ABCDの面積を、二等辺三角形の面積の四つ分として求めているもの	60と解答しているもの	1.7%
	60以外を解答しているもの	0.4%
	上記以外の解答、無解答	1.0%
上記以外の解答		17.2%
無解答		1.7%

## ① 学習指導要領の内容

第5学年

B図形

(3) 平面図形の面積に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積の計算による求め方について理解すること。

## ② 考察

全国平均正答率を上回っているものの、平均正答率は5割台という低い結果であった。

正答の条件①②をとともに満たしていない誤答の中で、平行四辺形の高さを6.5 cmの二つ分と捉えた児童の割合が10.8%と、誤答では1番割合が高い結果となった。図形の辺の長さや高さなどの構成要素について、正しく理解することが課題と考えられる。

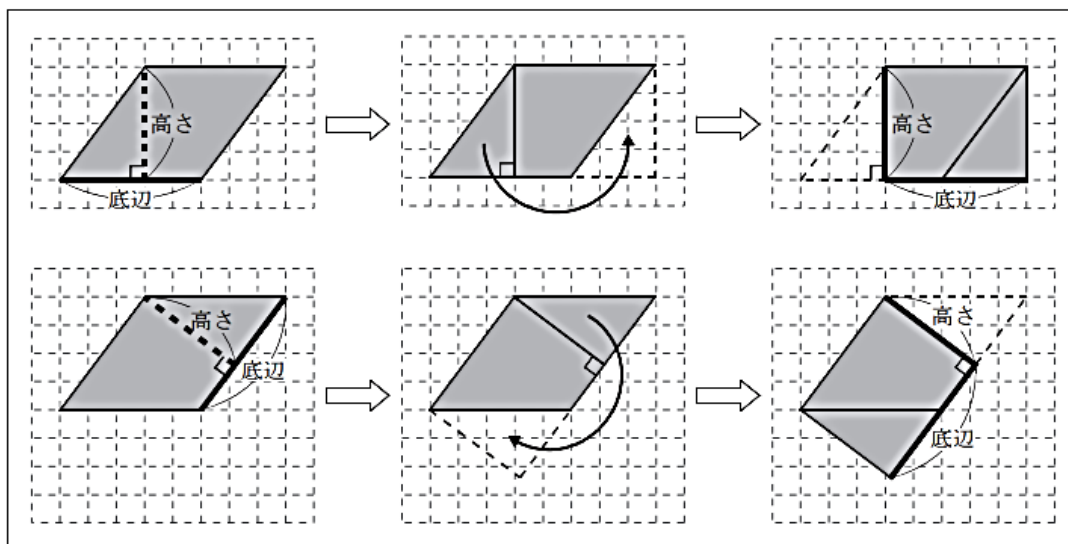
また、条件②は満たしているが条件①を満たしていない誤答は8.7%と2番目に多く、平行四辺形の面積を正しく求めることはできたが、高さを求める式や言葉を記述することができなかつたと考えられる。面積を求めるために必要な図形を構成する要素を使い、面積の求め方について筋道立てて説明することができるようにすることが課題と考えられる。

指導に当たっては、複数の図形を組み合わせた図形について、面積を求めるために必要な辺の長さや高さを、組み合わせる図形の長さや高さから求めるなど、図形を構成する要素などに着目して図形を捉え、筋道を立てて説明する活動を取り入れていくことが大切である。

例えば、次のような活動が考えられる。

### [学習活動の例]

平行四辺形の面積を求める公式を導く際に、平行四辺形を長方形に等積変形して面積を求める活動が考えられる。その際、下の図のように、方眼上の長方形の縦と横の辺が、元の平行四辺形の底辺と高さになっていることから、高さが底辺に垂直になっていることに着目できるようにすることが大切である。さらに、底辺を決めたときに、それに対応する高さがどこになるのかを印を付けるなどして、底辺と高さの位置関係を意識できるようにすることも大切である。



「令和3年度全国学力・学習状況調査報告書」より

## 中学校第3学年

### (1) 概要

◎ 大きく上回っている (5ポイント以上) ○ 上回っている (1ポイント以上5ポイント未満)  
 ー 同程度 (±1ポイント未満)  
 ▽ 下回っている (1ポイント以上 5ポイント未満) ▼ 大きく下回っている (5ポイント以上)

### ① 学習指導要領の領域別正答率

	数と式	図形	関数	資料の活用
県との比較	◎	◎	◎	○
全国との比較	◎	◎	◎	○

### ② 観点別正答率

	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解
県との比較	◎	○	○
全国との比較	◎	○	○

### ③ 問題形式別正答率

	選択式	短答式	記述式
県との比較	○	○	◎
全国との比較	○	○	◎

(2) 課題が見られた設問

8 (3)

「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する。

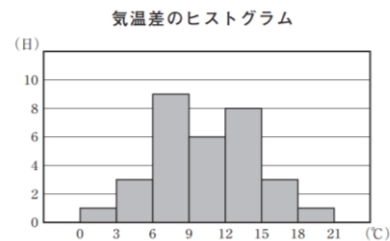
8 桃花さんは、5月にA市のキャンプ場に行くことになりました。キャンプの準備をするために、キャンプ場の過ごしやすさについて、気候に着目し、A市の昨年5月の最高気温、最低気温、日照時間、最大瞬間風速、降水量をインターネットで調べました。さらに、調べた最高気温から最低気温をひいて気温差を求め、下の表のようにまとめました。

調べたこと

日付	最高気温(℃)	最低気温(℃)	気温差(℃)	日照時間(時間)	最大瞬間風速(m/秒)	降水量(mm)
1日	20.9	6.9	14.0	5.8	7.4	0.0
2日	25.9	9.1	16.8	12.0	7.3	0.0
3日	27.3	12.8	14.5	10.3	8.2	0.0
4日	20.3	11.8	8.5	2.5	9.5	0.0
5日	23.5	9.4	14.1	9.9	11.9	0.5
6日	13.2	5.5	7.7	0.1	8.7	2.0
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
31日	20.9	9.2	11.7	2.2	9.1	0.0

○日照時間とは、1日のうちで、日光によってものの影ができた時間の合計のこと。

(1) 桃花さんは、前ページの調べたことの中から、気温差が大きい日や小さい日があることが気になり、気温差の分布のようすを、次のヒストグラムにまとめました。例えば、気温差が3℃以上6℃未満の日は3日あったことを表しています。



気温差が9℃以上12℃未満の階級の度数を求めなさい。

(2) 桃花さんは、14ページの気温差のヒストグラムを見て、6℃以上9℃未満の階級と12℃以上15℃未満の階級の度数が多く、山が2つあるように見えることが気になりました。13ページの調べたことを見直したところ、日照時間が長い日は、気温差が大きい傾向にあるのではないかと考えました。そこで、日照時間が6時間未満の日と6時間以上の日で分けてまとめた気温差について、それぞれの階級の相対度数を求め、度数分布表に表しました。

気温差の度数分布表

気温差(℃)	6時間未満		6時間以上	
	度数(日)	相対度数	度数(日)	相対度数
以上 未満				
0 ~ 3	1	0.05	0	0.00
3 ~ 6	3	0.16	0	0.00
6 ~ 9	9	0.47	0	0.00
9 ~ 12	4	0.21	2	0.17
12 ~ 15	2	0.11	6	0.50
15 ~ 18	0	0.00	3	0.25
18 ~ 21	0	0.00	1	0.08
合計	19	1.00	12	1.00

上の気温差の度数分布表のように、2つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いるのは、次のページのような考えが使われているからです。

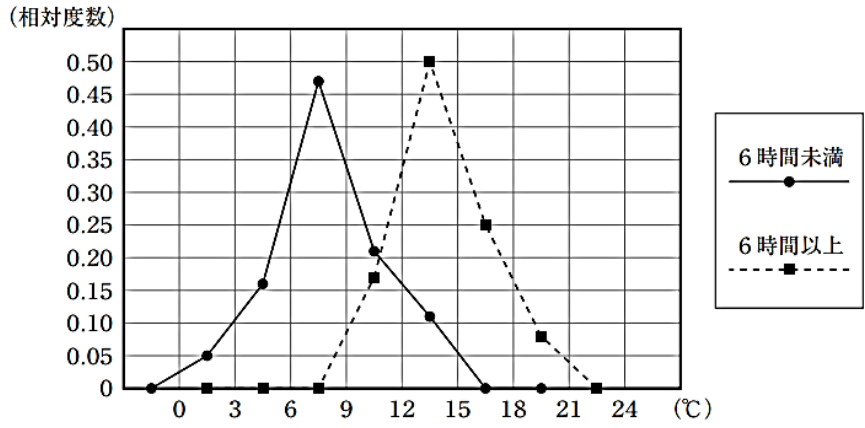
2つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いるのは、日照時間が「6時間未満」と「6時間以上」の  が違うからです。

上の  に当てはまる言葉として正しいものを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

- ア 日照時間    イ 気温差    ウ 階級ごとの度数    エ 度数の合計

(3) 桃花さんは、前ページの気温差の度数分布表をもとに、横軸を気温差、縦軸を相対度数として度数分布多角形（度数折れ線）に表しました。

気温差の度数分布多角形



気温差の度数分布多角形から、「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、気温差の度数分布多角形の2つの度数分布多角形の特徴を比較して説明しなさい。

[正答例]  
2つの度数分布多角形が同じような形で、6時間未満の度数分布多角形よりも6時間以上の度数分布多角形の方が右側にある。したがって、日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある。

[正答の条件] 次の条件を満たして解答している。  
① 6時間未満の度数分布多角形よりも6時間以上の度数分布多角形の方が右側にあること。  
② 日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にあること。

[平均正答率] 市10.9% 全国11.1% [無解答率] 市22.2% 全国32.2%

[解答類型と反応率 (市)]	
解 答 類 型	反応率
1 ①、②について記述しているもの (正答)	4.1%
2 ①のみを記述しているもの (正答)	6.8%
3 2つの度数分布多角形の形状のみを記述しているもの	5.3%
4 2つの度数分布多角形の山の高さの比較について記述しているもの	3.1%
5 上記の4以外で、度数分布多角形について、最小値、最大値、最頻値など、ある点を比較して記述しているもの	8.2%
6 度数分布多角形の相対度数に着目して記述しているもの	13.0%
上記以外の解答	37.7%
無解答	22.2%

## ① 学習指導要領の内容（平成20年告示）

第1学年

D資料の活用

(1) 目的に応じて資料を収集し、コンピュータを用いたりするなどして表やグラフに整理し、代表値や資料の散らばりに着目してその資料の傾向を読み取ることができるようにする。

イ ヒストグラムや代表値を用いて資料の傾向をとらえ説明すること。

## ② 考察

平均正答率が全国平均正答率を下回り、2割台という低い結果となった。

誤答について見てみると、度数分布多角形の相対度数に着目して記述している生徒が13.0%と、1番割合が高い結果となった。「2つの度数分布多角形の特徴を比較して説明する」という条件を満たして説明することが課題と考えられる。

また、度数分布多角形の形状や山の高さ、最大値など、ある点のみに着目して解答して記述している生徒の割合が多かった。「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」ことを主張することができる理由を説明するためには、2つの度数分布多角形が同じような形をしていることを確認した上で、日照時間が6時間以上の度数分布多角形の方が右側にあることを説明する必要がある。

指導に当たっては、度数分布多角形が何の傾向を表しているのかを明らかにし、2つの度数分布多角形の比較からどのような傾向があると言えるのかを考え説明することができるよう、指導することが大切である。例えば、生徒が自分の日常生活の中から提案したいことを決め、度数分布多角形の比較により提案事項の根拠を明らかにする活動を取り入れることが考えられる。

### [学習活動の例]

全校生徒の体力向上のために、1日あたりの運動時間の目安を提案する活動が考えられる。

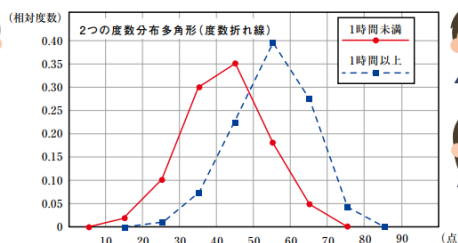
相対度数を求めて2つの度数分布多角形を比較し、「1日あたり1人1時間以上運動することが望ましい」ということの根拠を明らかにして提案できるようにする



2つの度数分布多角形を重ねると、次のようになります。この度数分布多角形から、「1日あたり1時間以上運動することが望ましい」ことがいえるでしょうか。



いえるよ。だって、1時間以上の方が右にあるから。



山の高いところで比べると、1時間以上の方の得点が10点高いよ。

右にあるって、どういことかな。



1時間以上の方が右にずれているので、「1日あたり1時間以上運動することが望ましい」といえそうですね。



ということは、望ましいことの理由は「度数分布多角形が同じような形をしていて、1時間未満よりも1時間以上の方が右側にある。」という説明でいいかな。



同じような形をしている2つの度数分布多角形を重ねたものをみると、分布の位置がずれていることがわかり、運動時間の目安を説明する際の根拠となりますね。

平成29年度授業アイディア例より



# 学習状況調査（児童・生徒質問紙）の結果について

## 1 基本的な生活習慣

全ての質問項目で、肯定的な回答の割合が前回よりも同程度または高い結果となった。また、全国の結果と比較しても、本市の児童生徒は基本的な生活習慣が定着していることが確認できる。一方で、起床時刻に比べ就寝時刻が不規則な傾向が見られた。

今後も就寝時刻の定着を意識しながら、規則正しい生活習慣の大切さを児童生徒に指導するとともに、家庭にも引き続き啓発を行い、現在の好ましい生活習慣を継続させていくことが重要である。

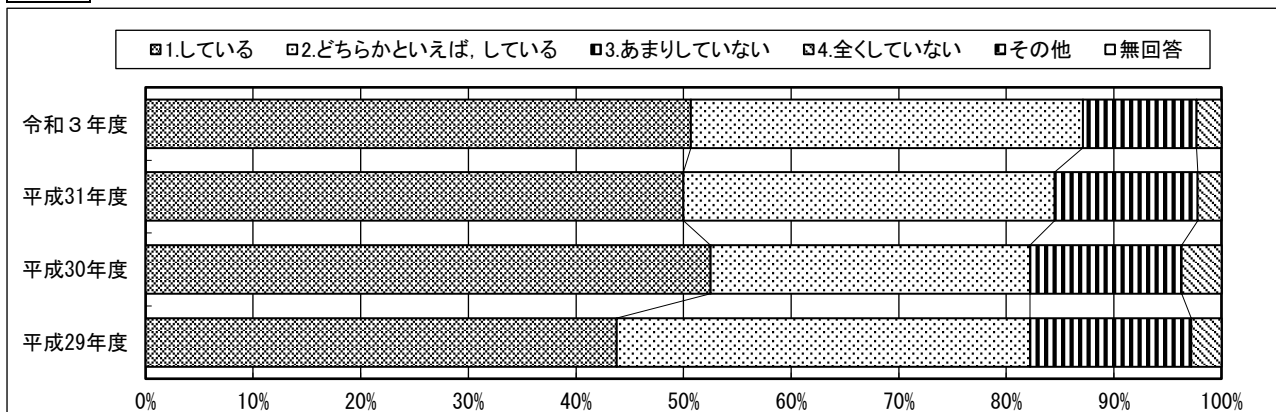
質問番号	質問事項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(1)	朝食を毎日食べていますか	97.1	94.9	95.9	92.8
(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	87.1	81.2	86.2	79.8
(3)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	94.0	90.4	95.1	92.7

※ 数値は、「している」「どちらかといえば、している」の合計

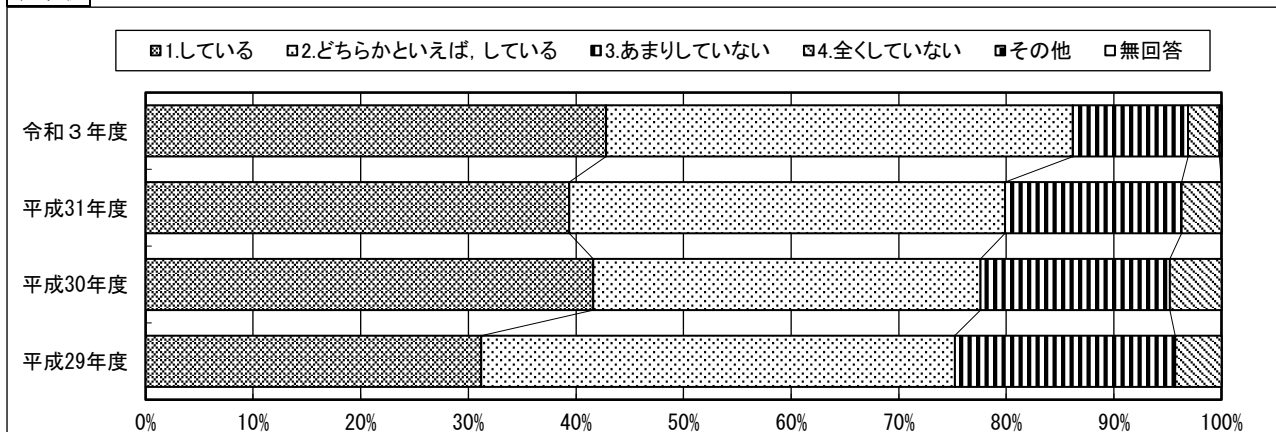
### 平成29年度からの経年比較

(2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか

小学校



中学校



## 2 学習習慣

授業時間以外に平日1日当たり1時間以上勉強している児童生徒の割合は、直近5年間で最も高い結果となり、学習習慣が定着している児童生徒が増えてきている。一方で、全国の平均回答率は上回っているものの、新聞を読む習慣の定着は十分とは言えない状況である。

今後も、「新聞の日」をきっかけとして新聞への関心をさらに高めていけるよう、学校図書館教育担当教職員や図書支援員との連携を図りながら、児童生徒が気軽に新聞をはじめとする活字媒体に慣れ親しめるような環境の整備に努めていくことが求められる。

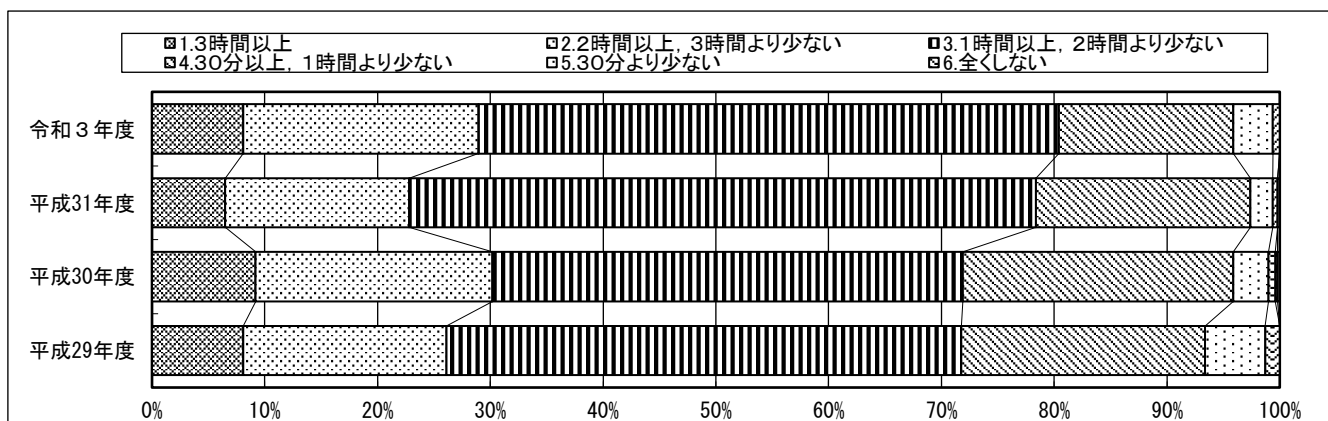
質問番号	質問事項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(17)	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)	78.9	74.0	65.7	63.5
(18)	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む) ※1時間以上と回答した割合	80.5	62.5	85.1	75.9
(23)	新聞を読んでいますか ※上段：月に1～3回以上と回答した割合 下段：週に1～3回以上と回答した割合	38.9	29.5	34.2	23.0
		17.8	14.8	14.0	10.0

※(17)の数値は、「している」「どちらかといえば、している」の合計

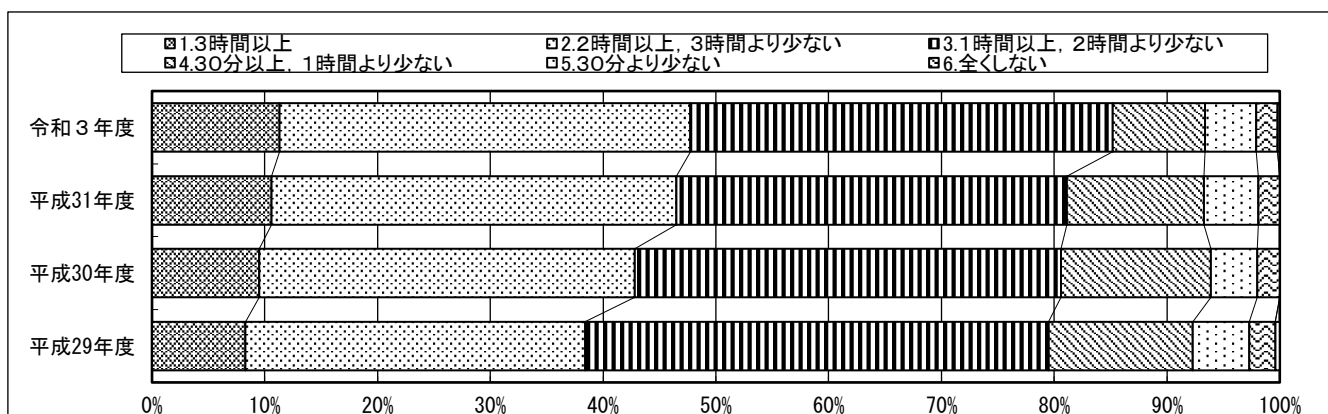
### 平成29年度からの経年比較

(18)学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

#### 小学校



#### 中学校



### 3 自己有用感

小・中学校ともに、肯定的な回答の割合が全国よりも高い結果となった。しかし、前回調査よりも低い結果となった。新型コロナウイルス感染症による臨時休業等の影響が直接関わっているかは断定できないが、学校生活の中で上級生がリーダーシップを発揮する機会の減少も要因の1つとして考えられる。

今後も、児童生徒一人一人のよさを認め、伸ばしていく指導を継続していくとともに、児童生徒の自己実現に向けたキャリア教育等の充実を図っていきたい。

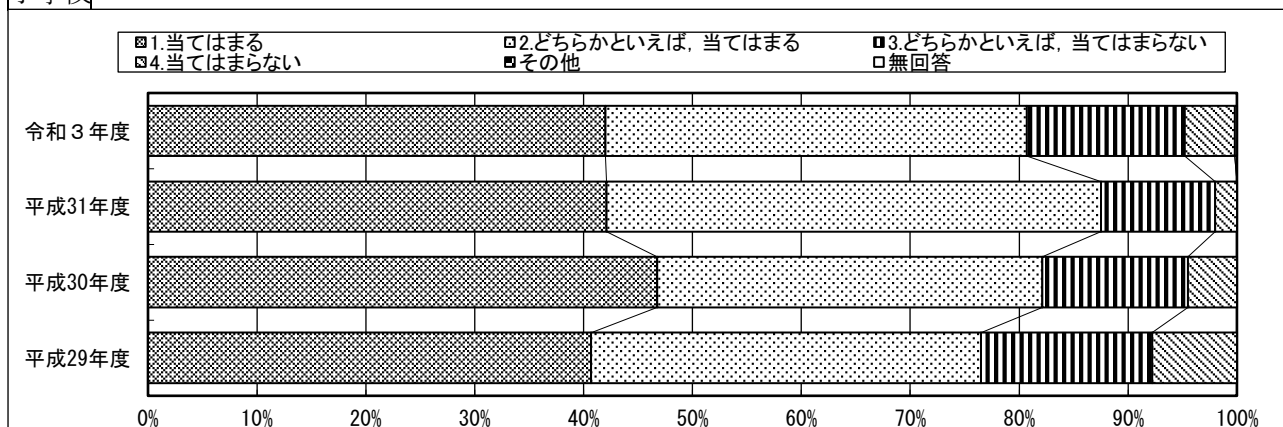
※ 数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計

質問 番号	質 問 事 項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(6)	自分には、よいところがあると思いますか	80.7	76.9	77.0	76.2
(7)	将来の夢や目標を持っていますか	82.4	80.3	74.5	68.6

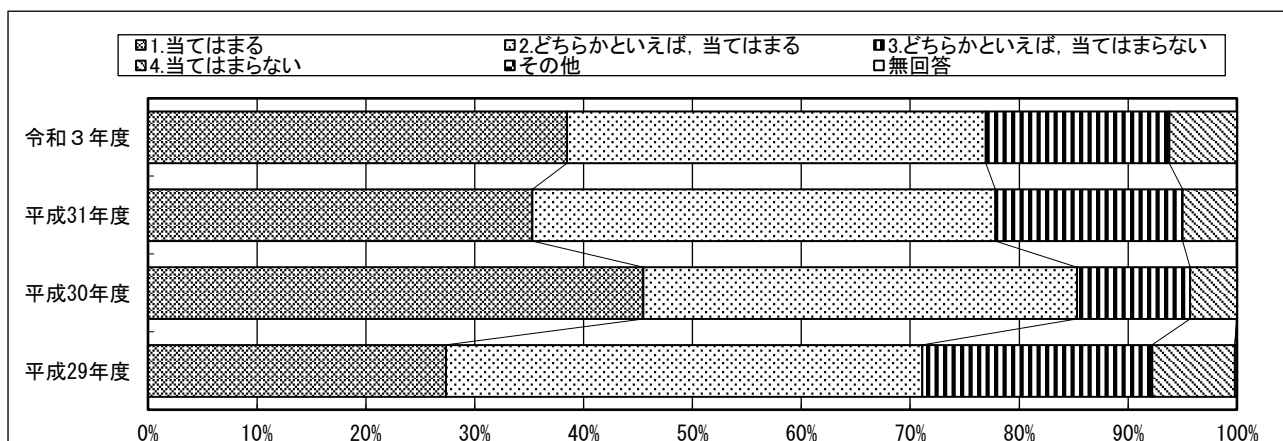
#### 平成29年度からの経年比較

(6)自分には、よいところがあると思いますか

小学校



中学校



## 4 規範意識

小・中学校ともに、肯定的な回答の割合が全国と同程度か上回る結果となった。(10)の項目が高い結果となっていることから、思いやりのある集団づくりがなされていることがうかがえる。一方で、(11)のいじめに関する項目では、9割以上の児童生徒がいじめを許さない意識をもっているものの、否定的な回答も一定数見られる。

今後も、家庭や地域との連携を図りながら規範意識の向上や倫理観の育成に努めるとともに、全児童生徒がいじめは決して許されない行為であるという意識をもって集団生活を送ることができるよう指導の充実に努めたい。

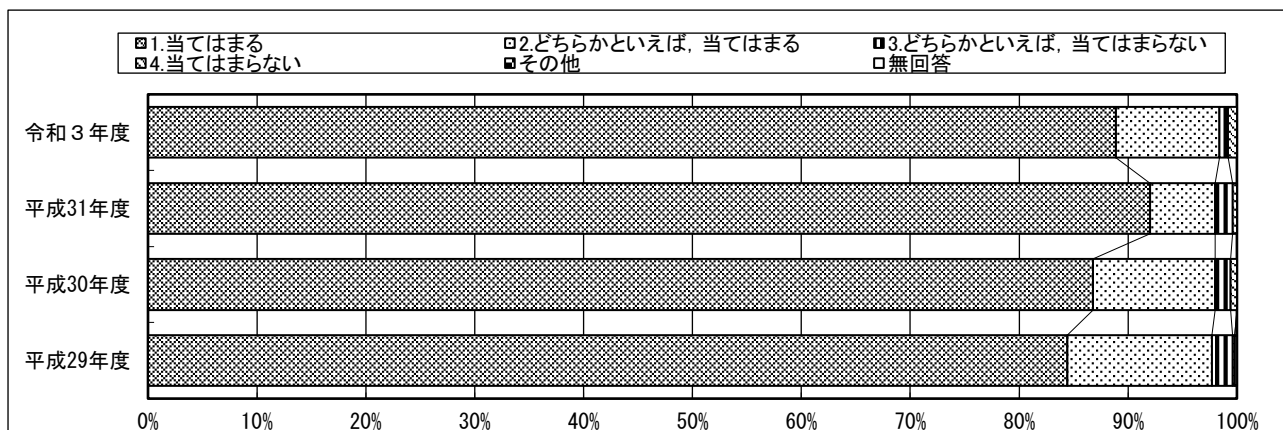
質問 番号	質 問 事 項 ※ ( ) は中学校	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(10)	人が困っているときは、進んで助けていますか	94.0	88.7	90.5	88.5
(11)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	98.5	96.8	95.5	95.9

※ 数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計

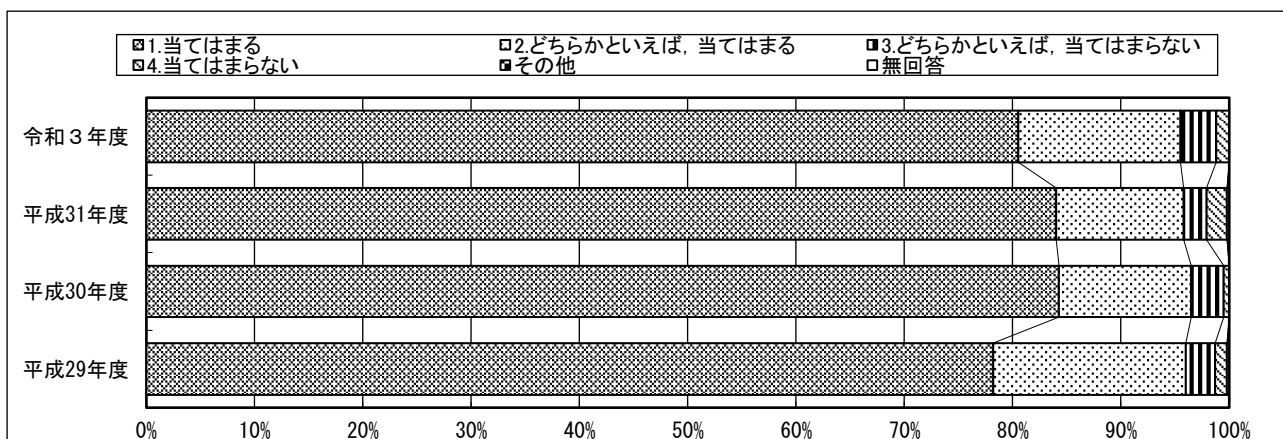
### 平成29年度からの経年比較

(11)いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

#### 小学校



#### 中学校



## 5 地域や社会に関わる活動

コロナ禍において行事に参加する機会が減少したこともあり、(24)の肯定的回答の割合は、前回調査と比較し小・中学校ともに減少している。(25)については、小学校では肯定的回答の割合は減少しているものの、中学校では増加した。コロナ禍においても、ビデオ会議システムを活用し各中学校の取組を共有するなど、子ども未来プロジェクトの取組を継続してきたことが意識の向上に影響していると考えられる。

今後も、自分たちの住む地域をよりよくしていこうとする態度を育てていくとともに、ふるさと学習の機会を積極的に設け、地域・社会への関心を高めていくことが求められる。

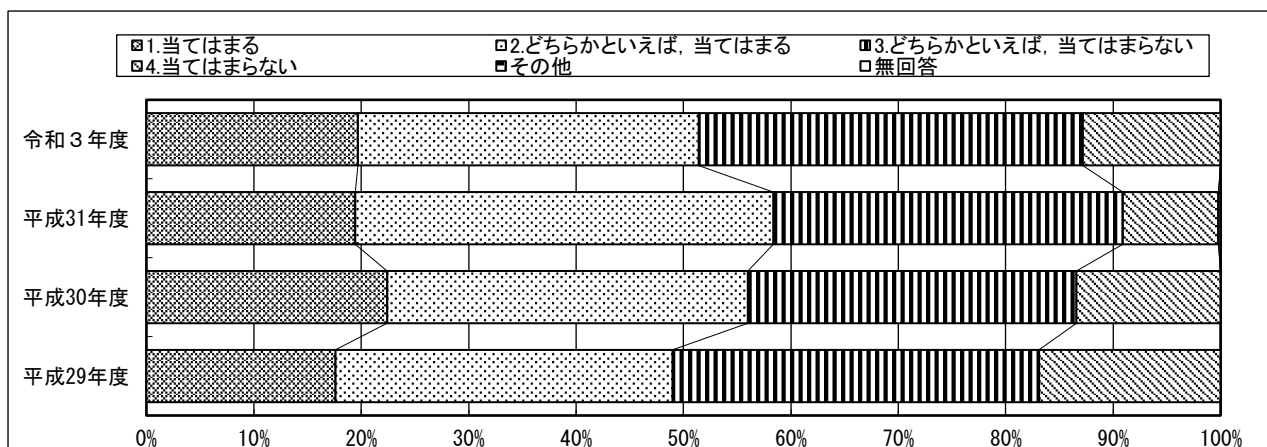
質問 番号	質 問 事 項 ※ ( ) は中学校	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(24)	今住んでいる地域の行事に参加していますか	65.6	58.1	54.5	43.7
(25)	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	51.4	52.4	46.5	43.8

※ 数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計

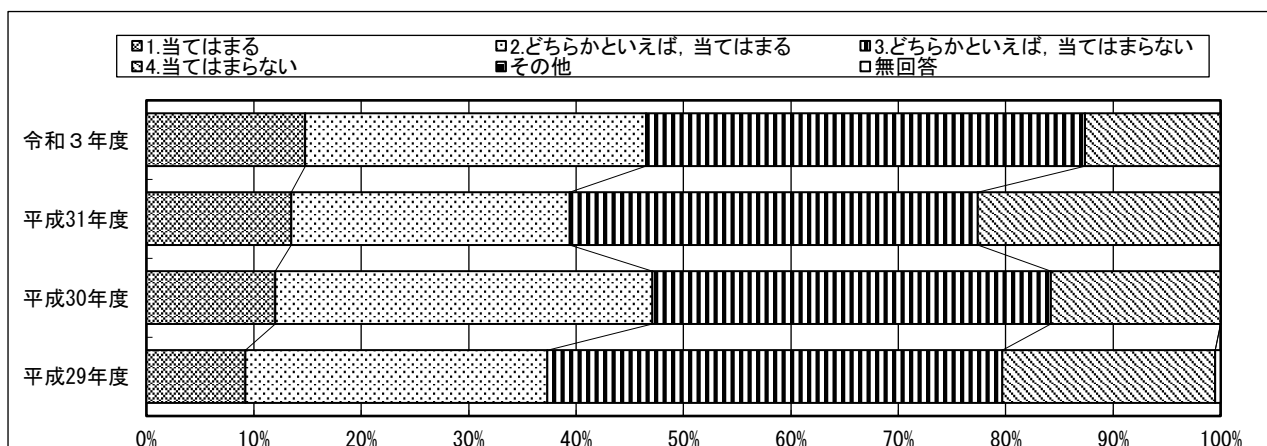
### 平成29年度からの経年比較

(25) 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか

#### 小学校



#### 中学校



## 6 新型コロナウイルス感染症拡大による臨時休業の影響

本市においては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、令和2年3月の全国一斉臨時休業に続き、令和2年4～5月も市内一斉臨時休業の措置を取った。その間、各学校は、家庭との連絡を密に取ったり、動画教材を提供したりしながら、学習支援を継続してきた。小学校においては、児童の8割が「学校からの課題で分からなかったことは家族に聞く」と答えていることから、家族が学習に関わる場面も多くなっている。その結果として、7割の児童が計画的に学習を進められたと答えている。一方で、中学校では、多くの生徒が自分自身で計画的に学習を進めたり、規則正しい生活を送ったりすることが難しい状況であることがうかがえる。

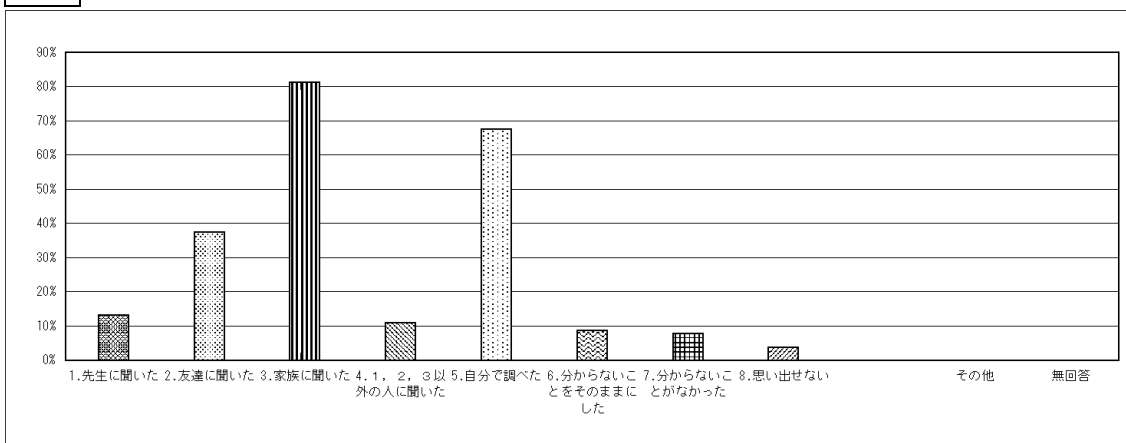
これらの結果を踏まえ、緊急時においても児童生徒が家庭において計画的に学習を進められるよう、家庭学習への取り組み方や、タブレット端末を活用した学習の進め方について、平時から継続して指導していけるよう努めたい。

質問 番号	質 問 事 項 ※（ ）は中学校	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(64)	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか	55.1	55.2	63.0	62.8
(65)	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか	70.4	64.6	36.0	37.6
(66)	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか	70.8	63.1	51.8	48.4

※ 数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計

(67) 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていましたか（複数選択）

小学校



中学校

